

# 株主のみなさまへ

第107期 中間報告書 [平成27年1月1日～平成27年6月30日]

具  
体  
化  
。



## CONTENTS

株主の皆様へ	1
中期経営計画「ペガサス」	2
事業別の概況	3
トピックス	5
連結財務諸表	7
会社概要	9
化学のチカラで ひとつひとつカタチへ。	10

昭和電工株式会社

証券コード 4004



### 第107期の中間報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

代表取締役社長 市川 秀夫

当上期の国内経済につきましては、緩やかな回復を続け、企業収益は円安基調に加え原油価格低下の効果もあり高水準で推移し、個人消費は雇用、所得環境が改善傾向にあり持ち直しの動きがみられました。海外経済につきましては、米国は緩やかな回復基調が続き、欧州はギリシャ情勢の混迷はあるもののドイツ、英国では回復がみられました。一方、中国は景気減速が鮮明となり、ロシア、ブラジル等資源国では景況の悪化がみられました。

このような状況の中、当上期の連結営業成績につきましては、売上高は、石油化学、化学品、アルミニウムの各部門は増収となりましたが、エレクトロニクス、無機、その他の各部門

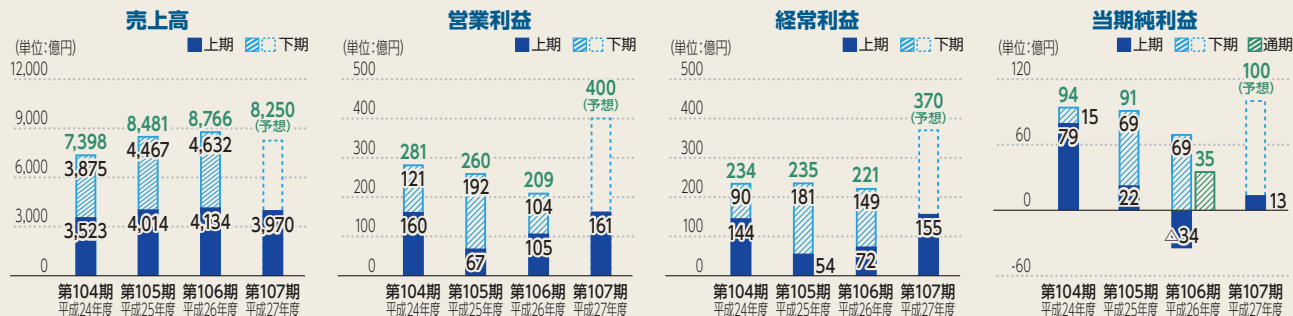
が減収となり、総じて減収となりました。営業利益は、エレクトロニクス部門はハードディスクの販売数量減少等により減益となりましたが、石油化学部門は前期の大型定期修理の影響がなくなったことに加え、東アジアの製品市況が改善し大幅な増益となったことにより、総じて増益となりました。これを受け、経常利益、四半期純利益は、増益となりました。

中間配当につきましては、成長分野へ積極的な投資を行うため、見送ることとさせていただきます。株主の皆様には、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

本年は、中期経営計画「ペガサス」の後半2年間の計画PhaseⅡの最終年となります。「グローバル市場で特徴ある存在感を持つ化学企業」の確立に向け、ハードディスクと黒鉛電極を両翼とする成長戦略を推進するとともに、「成長」事業に位置づけたアルミ缶、高純度アルミ箔、高純度ガス、機能性化学品を中心に、伸長するアジア市場での展開加速等、さらなる事業強化を進めてまいります。また、来期より始動させる次期中期経営計画の策定に注力してまいります。

株主の皆様にはおかれましては、何とぞ格別のご理解をいただき、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 連結業績ハイライト



# 中期経営計画「ペガサス」PhaseⅡ

当社グループは、5か年の中期経営計画「ペガサス」の後半2年間の計画であるPhaseⅡを昨年より推進しております。ここでは、ポストペガサスも見据えた、「ペガサス」の両翼、「成長」4事業、「新規(育成)」事業の取り組み状況をご報告いたします。

## ①「ペガサス」 両翼の強化

### ハードディスク

- ▶ データセンター向け高容量品の需要拡大に対応
- 2.5インチ1テラバイト品の開発加速
- ニアラインサーバー向けに3.5インチ品の生産体制の強化

### 黒鉛電極

- ▶ 需要回復に向けた設備投資の実施
- 昭和電工カーボン社 (米国) : 生産能力増強完了
- 大町事業所 : 設備更新による生産性向上
- 四川昭鋼炭素有限公司 (中国) : 高付加価値品の量産開始

## ②「成長」事業の アジア展開

### アルミ缶

- ▶ ベトナム市場での市場開拓と国内新規需要獲得

#### ベトナム (ハナキャン社) ▶▶▶

- 缶蓋生産設備新設 (2015年内稼働予定) による缶体とのセット販売

#### 日本 (昭和アルミニウム缶株式会社) ▶▶▶

- コーヒー缶需要の急拡大に対応する生産体制の強化

### 機能性化学品

- ▶ 熱硬化性成形材料事業の強化

- 広東省珠海市に中国で2番目となる生産拠点新設 (2016年内稼働予定)

### リチウムイオン電池材料

- ▶ 車載向け大型電池への採用拡大に対応

- アルミラミネートフィルム「SPALF<sup>®</sup>」、負極材「SCMG<sup>®</sup>」、正負極添加剤「VGCF<sup>®</sup>」の生産体制強化

### 高純度ガス

- ▶ アンモニア、亜酸化窒素、塩素、臭化水素を主力に生産拠点、サプライチェーンの強化

#### 韓国 (生産委託契約) ▶▶▶

- 高純度亜酸化窒素の新拠点稼働開始

#### 日本 (川崎事業所) ▶▶▶

- 高純度フッ化水素、高純度臭化水素の生産能力増強完了

#### 中国 (上海昭和電子化学材料有限公司) ▶▶▶

- 高純度フッ化水素の生産設備新設 (2015年内稼働予定)

### 高純度アルミ箔

- ▶ 電解コンデンサー需要の拡大に対応

- 昭和電工鋁業 (南通) 有限公司における生産能力増強完了

### SiCエピタキシャルウェハー

- ▶ パワー半導体の市場拡大促進

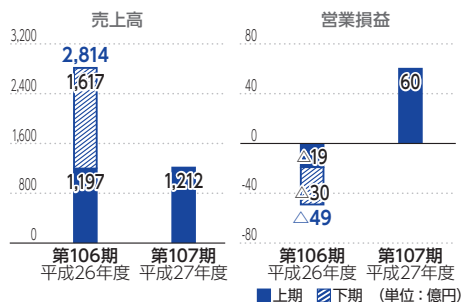
- 6インチ品の量産体制強化

## ③「新規(育成)」 事業の進捗



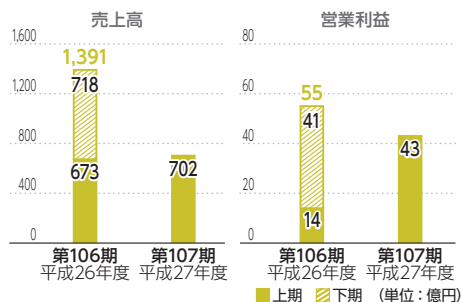
## 石油化学部門

オレフィン事業は、エチレン、プロピレン等主要製品の販売数量は増加しましたが、原料ナフサ価格下落により販売価格が低下し、前年同期並みの売上高となりました。有機化学品事業は、酢酸ビニル、酢酸エチルの販売数量が増加し増収となりました。



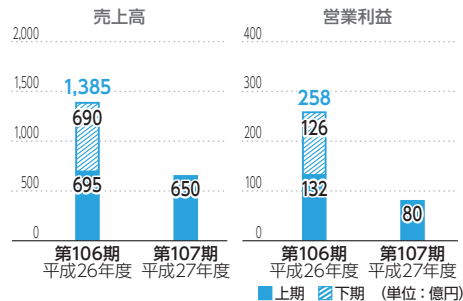
## 化学品部門

基礎化学品事業は、クロロプレンゴムは米国向け販売数量が増加しましたが、液化アンモニアは販売数量が減少し、アクリロニトリルは市況低下により、総じて減収となりました。情報電子化学品事業は、東アジア向け半導体用高純度ガスの販売数量が大幅に増加し増収となりました。機能性化学品事業は、上海昭和高分子有限公司を新たに連結子会社としたため増収となり、産業ガス事業は、前年同期並みの売上高となりました。



## エレクトロニクス部門

ハードディスク事業は、前年同期にみられたパソコンの買い替え需要が一段落したことにより販売数量が減少し減収となりました。電子機能材事業は、レアアース磁石合金は中国の輸出税撤廃の影響により販売価格が低下し減収となり、化合物半導体は小幅に減収となりました。



28.9%

石油化学  
部門

16.8%

化学品部門

15.5%

エレクトロニクス  
部門

7.9%

無機部門

11.9%

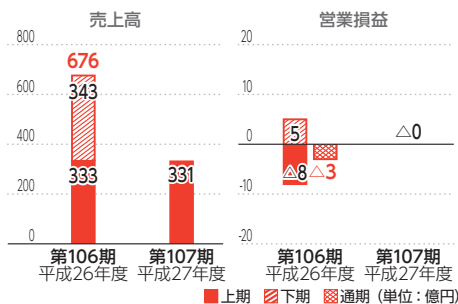
アルミニウム  
部門

19.0%

その他部門

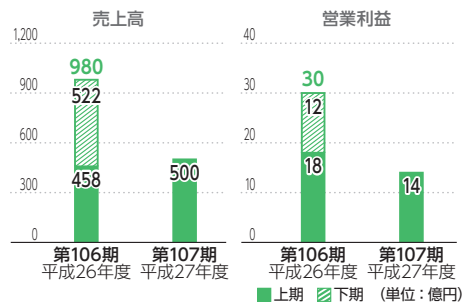
## 無機部門

黒鉛電極事業は、米国の鉄鋼業界はドル高の進行、寒波の影響もあり厳しい状況で推移し、アジア地区では軟調な需給関係が続いたため、販売数量が減少し小幅に減収となりました。セラミックス事業は、前年同期並みの売上高となりました。



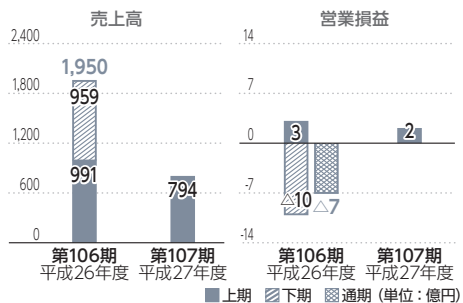
## アルミニウム部門

アルミ圧延品事業は、電解コンデンサー用高純度箔は昭和電工鋁業(南通)有限公司で販売数量が増加し増収となりました。アルミ機能部材事業は、軟調な国内自動車生産により販売数量が減少し減収となりました。アルミ缶事業は、前期に連結子会社としたハナキャン社(ベトナム)の売上高が加わり増収となりました。



## その他部門

リチウムイオン電池材料は、スマートフォン向けの販売数量が増加したことに加え、車載向けの販売が本格化したため増収となりました。昭光通商株式会社は中国鉄鋼関連事業が大幅な減収となりました。





その他部門

2015/1 リチウムイオン電池用包材の  
新技術を開発

昭和電工パッケージング株式会社は、リチウムイオン電池用アルミラミネートフィルム「SPALF®」に



新型電池への応用

導電性を持たせることで電池の小型化、軽量化を可能とする技術を開発いたしました。

アルミニウム部門

2015/1 ミルク入りコーヒー用  
アルミ缶の供給を開始

昭和アルミニウム缶株式会社は、コーヒー缶専用の製造設備を新設し、ミルク入りコーヒー用アルミ缶の供給を開始いたしました。



アルミ缶製品

化学品部門

2015/2 熱硬化性成形材料事業  
中国第二生産拠点設立を決定

当社は、熱硬化性成形材料事業の強化を図るため、台湾の長興材料工業股份有限公司との合併により、広東省珠海市に当社グループとして中国で2番目となる生産拠点の新設を決定いたしました。



不飽和ポリエステル複合材

その他部門

2015/3 植物工場の海外展開における連携協定を締結

当社は、国立大学法人山口大学とLEDを用いた植物工場の海外への技術展開に関する連携協定を締結いたしました。

エレクトロニクス部門

2015/3 世界最大記録容量  
ハードディスクの出荷開始

当社は、2.5インチサイズとしては世界最大となる1枚当たりの記録容量が750ギガバイトのハードディスクの出荷を開始いたしました。



ハードディスク

2015

1

2

3

- 石油化学部門
 ■ 化学品部門
 ■ エレクトロニクス部門
 ■ 無機部門
 ■ アルミニウム部門
 ■ その他部門

2015/4

化学品部門  
高純度ガス事業の強化



半導体用高純度ガス

当社は、川崎事業所において、半導体製造用の高純度ガスである高純度フッ化水素、高純度臭化水素の生産能力を増強いたしました。また、高純度フッ化水素については、上海昭和電子化学材料有限公司に製造設備の新設を決定し、本年中の稼働を予定しております。

2015/4

化学品部門  
フェノール樹脂事業譲渡に関する契約締結

当社は、アイカ工業株式会社との間で、フェノール樹脂事業に関する事業譲渡契約を締結いたしました。当社が新会社を設立し、本年9月に同事業の会社分割を行ったうえ、新会社の株式の85%を同社に譲渡し、残りの15%は初回譲渡から2年をめぐりに譲渡する予定です。

2015/5

印刷で作るエレクトロニクス  
製品用材料の開発

当社は、マイクロ波化学株式会社と共同で、印刷技術によって透明導電パターンを形成する銀ナノワイヤーインクの量産技術を開発いたしました。また、当社は、スクリーン印刷において薄膜の電子回路形成が可能な導電性銀インクを開発いたしました。

2015/6

化学品部門  
細胞を活性化する  
スリミング・アンチエイジング  
化粧品原料の開発

当社は、皮膚や細胞膜に深く浸透し、脂肪の蓄積抑制や肌のハリに優れた効果が期待できる化粧品添加用ヒドロキシクエン酸誘導体「HCAP®」を開発いたしました。

6

当社のネットワーク

国内と海外に広がる  
ネットワークで個性的な製品を  
安定的かつタイムリーに供給しています





■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 平成27年6月30日現在	前 期 平成26年12月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>348,813</b>	<b>380,439</b>
現金及び預金	67,595	66,840
受取手形及び売掛金	129,169	156,880
たな卸資産	119,208	123,600
その他	33,168	34,628
貸倒引当金	△327	△ 1,509
<b>固定資産</b>	<b>626,823</b>	<b>630,644</b>
有形固定資産	517,815	513,656
無形固定資産	13,082	13,680
投資その他の資産	95,926	103,308
投資有価証券	79,867	76,113
その他	30,858	27,608
貸倒引当金	△14,800	△ 412
<b>① 資産合計</b>	<b>975,636</b>	<b>1,011,083</b>

(単位：百万円)

科 目	当中間期 平成27年6月30日現在	前 期 平成26年12月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>339,029</b>	<b>380,781</b>
支払手形及び買掛金	108,023	127,206
借入金・社債・コマーシャルペーパー	146,958	157,005
その他	84,048	96,570
<b>固定負債</b>	<b>309,436</b>	<b>309,798</b>
借入金・社債	237,770	226,119
退職給付に係る負債	14,376	22,115
その他	57,290	61,564
<b>負債合計</b>	<b>648,465</b>	<b>690,579</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>248,509</b>	<b>250,099</b>
資本金	140,564	140,564
資本剰余金	62,221	62,221
利益剰余金	55,880	57,467
自己株式	△10,155	△ 10,153
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>64,534</b>	<b>50,072</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>14,128</b>	<b>20,333</b>
<b>純資産合計</b>	<b>327,171</b>	<b>320,504</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>975,636</b>	<b>1,011,083</b>



## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成27年 1月 1日から 平成27年 6月30日まで	平成26年 1月 1日から 平成26年 6月30日まで
売上高	396,980	413,384
売上原価	336,986	360,852
売上総利益	59,994	52,532
販売費及び一般管理費	43,884	41,999
営業利益	16,109	10,533
営業外収益	4,936	3,376
営業外費用	5,546	6,708
経常利益	15,500	7,201
特別利益	1,926	1,092
② 特別損失	17,529	5,779
税金等調整前四半期純利益 又は純損失(△)	△103	2,515
法人税等	5,256	5,445
少数株主損益調整前四半期 純損失(△)	△5,359	△2,931
少数株主利益又は損失(△)	△6,639	505
四半期純利益又は純損失(△)	1,280	△3,436
一株当たり四半期純利益 又は純損失(△)	0.90円	△2.30円

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成27年 1月 1日から 平成27年 6月30日まで	平成26年 1月 1日から 平成26年 6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	21,310	11,298
③ 投資活動による キャッシュ・フロー	△18,254	△ 30,599
財務活動による キャッシュ・フロー	△7,579	6,167
現金及び現金同等物に 係る換算差額	2,066	△ 1,462
現金及び現金同等物の 増減額	△2,457	△ 14,595
現金及び現金同等物の 期首残高	66,515	68,175
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	3,002	996
連結除外に伴う現金及び 現金同等物の減少額	△7	—
合併に伴う現金及び 現金同等物の増加額	161	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	67,215	54,575

## ■ 連結決算対象会社

連結子会社数：48社

持分法適用会社数：13社

## POINT

### ① 資産合計

前期末休日影響のため売上債権が減少したこと等により、前期末比354億円の減少となりました。

### ② 特別損失

昭光通商株式会社の中国の鉄鋼関連事業に関する貸倒引当金繰入額を129億円計上したこと等により、前年同期比117億円の増加となりました。

### ③ 投資活動によるキャッシュ・フロー

米国 昭和電工カーボン社の生産能力増強が完工したため、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等により、前年同期比123億円の支出減となりました。

■ **会社概要** (平成27年6月30日現在)

社 名 昭和電工株式会社  
 英 文 社 名 Showa Denko K.K.  
 本 社 〒105-8518 東京都港区芝大門一丁目13番9号  
 電話(03)5470-3111(総務グループ)  
 設 立 昭和14年6月  
 資 本 金 1,405億64百万円  
 従業員数(連結) 10,746名  
 ホームページ <http://www.sdk.co.jp/>

■ **役員** (平成27年6月30日現在)

**取締役・監査役**

取 締 役 会 長 高橋 恭平	常務執行役員 石川 二郎
代表取締役社長兼社長執行役員 市川 秀夫	執行役員 Robert C. Whitten
代表取締役兼専務執行役員 鯉沼 晃	執行役員 西村 嘉介
取締役兼常務執行役員 天野 賢	執行役員 水谷 温
取締役兼常務執行役員 武藤 三郎	執行役員 上口 啓一
※取 締 役 秋山 智史	執行役員 高崎 完二
※取 締 役 森田 章義	執行役員 田仲 均
※取 締 役 尾嶋 正治	執行役員 新井 龍晴
常 勤 監 査 役 野村 一郎	執行役員 河村 伸彦
常 勤 監 査 役 坂本 明	執行役員 田中 淳
※監 査 役 手塚 裕之	執行役員 森川 宏平
※監 査 役 小原 之夫	執行役員 稲泉 淳一
※監 査 役 齋藤 聖美	執行役員 竹内 陽一
	執行役員 佐藤 貴幸
	執行役員 竹内 元浩
	執行役員 長井 太一

(注) ※印の取締役および監査役は、社外役員であります。

■ **株式の状況** (平成27年6月30日現在)

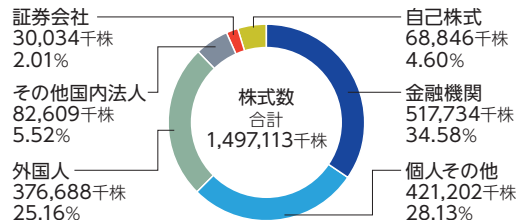
発行可能株式総数 ..... 3,300,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 1,497,112,926株  
 株主数 ..... 90,917名

■ **上位10名の株主** (平成27年6月30日現在)

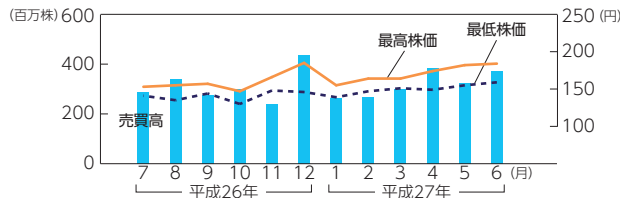
株 主 名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	62,842	4.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	62,773	4.40
富国生命保険相互会社	55,168	3.86
第一生命保険株式会社	36,000	2.52
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	30,068	2.11
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	27,738	1.94
明治安田生命保険相互会社	26,447	1.85
昭和電工従業員持株会	24,395	1.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	20,806	1.46
日本生命保険相互会社	20,063	1.40

(注) 持株比率は発行済株式総数から自己株式(68,846千株)を控除して算出しております。

■ **株式の所有者別状況** (平成27年6月30日現在)



■ **株式データ**



# 化学のチカラで ひとつひとつカタチへ。



## 地球環境と調和するプラスチック 生分解性プラスチック「ビオノーレ®」

生分解性プラスチック「ビオノーレ®」は、従来のプラスチックのもつ使い勝手のよさと、海洋、土壌、コンポストなど自然環境の中でCO<sub>2</sub>と水に分解できる環境適合性とを両立させた素材です。特に、農林業分野や土木分野など、使用後の回収・リサイクルが困難な分野においては、その優れた生分解性が評価されています。



「ビオノーレ®」の用途群



農業用フィルム

欧州や中国を中心とする環境規制の施行により、「ビオノーレ®」は、環境汚染対応製品として、市場の拡大が期待されています。また、当社は、CO<sub>2</sub>排出を抑制するため、植物由来の再生可能資源を原料に用いた製品の開発、販売を進めており、環境負荷の低減に貢献するビオノーレブランドの拡販を図ってまいります。

### 世界の認証機関から生分解性認証

「ビオノーレ®」は、“堆肥化の過程で十分に生分解すること、出来た堆肥の動植物などへの安全性を証明する”等の生分解性認証を、日本、ドイツ、ベルギー、米国の認証機関から取得しています。



「ビオノーレ®」製ボトルの生分解

「ビオノーレ®」は、環境中に多数生息する微生物が分泌する酵素で低分子量化合物に分解された後に微生物に取り込まれ、CO<sub>2</sub>と水に分解されます。

### 地球温暖化対策に貢献

- 「ビオノーレ®」にデンプンなどを混ぜ合わせることで、従来のプラスチックに比べ1/3~1/2のCO<sub>2</sub>排出量を実現するグレードの販売開始
  - 「**ビオノーレSTARCLA® (スタークラ®)**」  
レジ袋、ゴミ袋、農業用フィルム向け
  - 「**碧能清雪™ (KIYOYUKI™)**」  
レジ袋、包装材向け
- 「ビオノーレ®」の原料を植物由来に切り替えたグレードのラインナップ
  - 「**Bio-ビオノーレ**」  
シングルユース包材用途での評価中

## 各種IRツールのご紹介

当社は、半期毎の報告書「株主のみなさまへ」、アニュアルレポート(英文)やCSRレポート等の各種IRツールを通じて、株主の皆様を始めとする多くの皆様に当社グループの事業活動をご理解いただけるよう努めております。

各種IRツールにつきましては、当社WEBサイトでご覧いただけます。



コーポレートサイト

▶▶ <http://www.sdk.co.jp/ir.html>

IRサイト

## 株主メモ

**事業年度** 毎年1月1日から12月31日まで  
**定時株主総会** 3月  
**株主確定基準日** (1) 定時株主総会・期末配当 12月31日  
 (2) 中間配当 6月30日

その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

## 公告方法

電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。  
 公告掲載URL  
<http://www.sdk.co.jp/>

## 単元株式数

1,000株

## 株主名簿管理人

東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社

## 同事務取扱場所

東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 TEL. 0120-288-324

(郵便物送付先)  
 (電話お問い合わせ先)

## 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社へお願いいたします。株券電子化前に「[ほふり] (株式会社証券保管振替機構) へ預託されていなかった株主様については、株主名簿管理人である左記のみずほ信託銀行株式会社の口座(特別口座といいます。)で管理させていただいております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話お問い合わせ先へお願いいたします。

未払配当金については、株主名簿管理人に加え、株式会社みずほ銀行の全国本支店でもお手続きいただけます。

## ご案内

当社は、「単元未満株式の買増制度」を導入しております。1単元(1,000株)に満たない株式をご所有の株主様は、単元未満株式と併せて1単元になる株式を買増請求することができます。お手続きなどの詳細については、当社株主名簿管理人(みずほ信託銀行)へお問い合わせください。  
 なお、単元未満株式の買取請求につきましても、お取扱いいたします。



適切に管理された森林資源を用紙の材料にしています。



IPA (インプロピルアルコール) 等の有害物質を含む「湿し水」を使わない水なし印刷を採用し、VOCの発生を大幅に削減しています。



VOC (揮発性有機化合物) の発生が少ない、ベジタブルインクを使用しています。



色覚の個人差を問わず出来るだけ多くの方に見やすいユニバーサルデザインにしています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。